

授業科目名	教育と ICT 活用の方法	教員名	小林博典	免許・資格との関係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	選択
					保育士	
					こども音楽療育士	
科目番号		配当年次	1年後期	卒業要件	小幼コース	
授業形態	講義 クラス分け・単独				幼保コース	
単位数	1単位					
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法					
一般目標・到達目標	<p>（１）情報通信技術の活用の意義と理論 一般目標：情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。 到達目標： 1) 社会的背景の変化や急速な技術の発展も踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性など、情報通信技術の活用の意義と在り方を理解している。 2) 特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用の意義と活用に応じた留意点を理解している。 3) ICT支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方、学校におけるICT環境の整備の在り方を理解している。</p> <p>（２）情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進 一般目標：情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 到達目標： 1) 育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した指導事例(デジタル教材の作成・利用を含む。)を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。 2) 学習履歴(スタディ・ログ)など教育データを活用して指導や学習評価に活用することや教育情報セキュリティの重要性について理解している。 3) 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を理解している。 4) 統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について理解している。</p> <p>（３）児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための指導法 一般目標：児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。 到達目標： 1) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間(以下「各教科等」という。)において、横断的に育成する情報活用能力(情報モラルを含む。)について、その内容を理解している。 2) 情報活用能力(情報モラルを含む。)について、各教科等の特性に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。 3) 児童に情報通信機器の基本的な操作を身に付けさせるための指導法を身に付けている。※小学校教諭</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている、6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	全体目標： 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 本講義では、情報通信技術の意義と基礎的な理論を学ぶとともに、GIGAスクール構想における令和の日本型学校教育を展開するために必要となる社会的背景や学習指導要領との関連について、具体的な活用事例や演習等をとおして学習する。授業形態は講義とする。アクティブラーニングとし					

	て、1人1台端末の整備で導入が広がっている、授業支援システムを活用した授業の体験や、これらを活用した対話的な学びを行うなど、具体的な実践に即した学習によって理解を深める。
履修条件・ 注意事項	講義に関するレポートの提出方法や提出期限について順守する。
授業計画	<p>第1回： GIGAスクール構想に関する社会的背景や、学校における情報通信技術に関する整備状況について理解するとともに、ICT支援員などの外部人材・外部機関と連携した取組の実態について理解する。 (目標 (1) -1、(1) -3)</p> <p>第2回： 1人1台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びについて、学習指導要領や特別支援教育と関連付けて学習し、情報通信技術を効果的に活用した授業改善の必要性について理解する。 (目標 (1) -1、(1) -2)</p> <p>第3回： 情報メディア、デジタル教材、デジタル教科書等を用いた指導事例にふれ、これらの効果的活用法について理解する。(目標 (2) -1、(3) -1、(3) -2、(3) -3)</p> <p>第4回： 授業支援システムを活用した指導事例について学習し、各教科等において横断的に育成する情報活用能力について、その内容を理解する。 (目標 (1) -2、(2) -1、(3) -1、(3) -2、(3) -3)</p> <p>第5回： 授業支援システムを活用した操作演習や、各教科等における情報通信技術の効果的活用法について、情報活用能力育成の観点から考察する。(目標 (2) -1、(3) -1、(3) -2、(3) -3)</p> <p>第6回： 学習履歴(スタディ・ログ)、デジタルポートフォリオを活用した学習評価の方法や、遠隔・オンライン教育の導入の方法について学習し、教育情報セキュリティについて理解する。 (目標 (2) -2、(2) -3、(3) -3)</p> <p>第7回： 統合型校務支援システムの活用など、校務の情報化の現状や今後の推進のあり方について理解する。(目標 (2) -4)</p> <p>第8回： 情報通信技術の進展において必要となる、学校における著作権や情報モラルに関する知識を習得するとともに、家庭と連携した取組や健康面に対する配慮事項等について理解する。 (目標 (3) -1、(3) -2、(3) -3)</p>
学生に対する評価	<p>レポート(40%)と小テスト(60%)で評価する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>講義内容について、シラバスの到達目標に記載されているように自分の言葉で他者に説明できるように努めること。</p>
教材にかかわる情報	<p>テキスト：使用しない</p> <p>参考書： <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程研究会、山下省蔵編著 教職必修 教育の方法と技術 実教出版 ・平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化社 ・柴田義松編著 教育の方法と技術 学文社 </p> <p>参考資料等：文部科学省 資料：学習評価・指導要録 関係報告・通知</p>
担当者からのメッセージ	授業中に示される参考文献で基礎となる知識・情報を調べておくこと。
オフィスアワー	授業後、あるいはメールにて対応する。
備考	